

第51回けいはんな エジソンの会

人を救う医学、地球を救う化学 ～ノーベル賞受賞者と歩んだ日々～

にしかわ ひろよし
西川 博嘉氏

「免疫の暴走を止めろ！」

～制御性T細胞の発見とがん治療の最前線～

京都大学大学院医学研究科附属 がん免疫総合研究センター 教授

名古屋大学大学院医学系研究科 分子細胞免疫学 教授

国立がん研究センター研究所 腫瘍免疫研究分野 分野長

ふるかわ しゅうへい
古川 修平氏

「分子の積み木で地球を救え！」

～MOFが産み出す持続可能な社会～（仮題）

京都大学 物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）教授

副拠点長、副iCeMS解析センター長

2025年、坂口志文氏と北川進氏がそれぞれノーベル生理学・医学賞、ノーベル化学会賞を受賞されました。坂口氏は「制御性T細胞（Treg）」の発見により、免疫の暴走を防ぐ仕組みを解明し、がん、自己免疫疾患や臓器移植の理解と治療に新たな道を開かれました。北川氏は「金属有機構造体（MOF）」の開発により、気体の吸着・分離やエネルギー貯蔵、さらには二酸化炭素削減技術に革新をもたらしました。両氏の研究は、基礎科学の探究心から生まれ、社会課題の解決に直結する成果へと結実しています。

本講演では、両氏の研究室で学んだ研究員の立場から、研究の進展を支えた日常のエピソードや、両氏の人柄に触れながら、研究の核心とその評価について語ります。坂口氏の「運転根」や、北川氏の「無用の用」という視点は、研究者のみならず、私たちにも深い示唆を与えています。

さらに、両氏の成果が社会に与える影響についても考察します。免疫学の進展は難治性疾患の克服に希望を与え、MOFの応用は持続可能な社会の構築に貢献します。これらは単なる科学的発見にとどまらず、人類の未来を形づくる力を持っています。

本講演を通じて、受賞者の人となりと研究の背景を共有し、科学が社会に果たす役割を改めて考える機会にしたいと思います。

どなたでも
参加できます。
情報交換会も
再開しています。



日 時 2026年2月4日(水) 14:00～18:00

会 場 国際高等研究所レクチャーホール

京都府木津川市木津川台9丁目3番地

参 加 費 3,000円 学生（大学院生を含む）は無料

定 員 50名（先着順）

申 し 込 み ホームページからお申し込みください（12月下旬受付開始予定）
<http://www.iias.or.jp/communication/edison>

締 切 2026年
2月2日(月)

けいはんな「エジソンの会」とは…

けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するため、国際高等研究所が知的ハブとしての役割を果たし、立地機関の研究者や技術者を中心にあらゆる人が入り自由なコミュニティの形成と、この街ならではの基幹技術・基幹産業の確立を目指して、2016年6月21日に、けいはんな「エジソンの会」を発足しました。

お問い合わせ

エジソンの会事務局

Tel : 0774-73-4000 e-mail : edi-four@iias.or.jp

主催：公益財団法人国際高等研究所

後援：国立研究開発法人理化学研究所、公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構

